

2016年6月7日
株式会社東陽テクニカ

～次世代クラウドと高速イーサネットの実用化に貢献～
25ギガビットイーサネットスイッチの性能をテストで測定する
デモンストレーションを“Interop Tokyo 2016”にて公開

株式会社東陽テクニカ（本社：東京都中央区、代表取締役社長：五味 勝、以下 東陽テクニカ）は、通信・IT関連測定器のリーディングカンパニーである米国 Spirent Communications 社（以下 Spirent 社）の IP パフォーマンステストツール「Spirent TestCenter」の新ラインアップである「Spirent TestCenter 25G テストモジュール」の取扱いを開始いたしました。

この度、6月8日（水）より幕張メッセにて開催される“Interop Tokyo 2016”^{※1}にて、この「Spirent TestCenter 25G テストモジュール」を、華為技術日本株式会社（以下 ファーウェイ・ジャパン）の「Cloud Engine データセンター・スイッチ」と接続する公開デモンストレーションを行います。この公開デモンストレーションは、データセンターネットワーク高速化に不可欠な技術として 2016 年 9 月に最新規格の標準化が完了予定の、25ギガビットイーサネットの実用性を公開の場で測定して証明する歴史的なイベントとなります。

なお、東陽テクニカは Spirent 社の国内総代理店であり、今回の「Spirent TestCenter 25G テストモジュール」は Interop Tokyo 2016 “Best of Show Award” のマネジメント&モニタリング&テスト部門で Finalist としてノミネートされております。



<Spirent TestCenter 25G テストモジュール>

クラウドサービスにおけるトラフィックは年々増え続け、2019 年には 2015 年の 4 倍以上になるとも言われています。現在クラウドサービス事業者のデータセンターでは、10 ギガビットイーサネットにより大量のサーバを高ポート密度の ToR（Top of Rack）スイッチ^{※2}に収容しています。

しかし、増え続けるトラフィックを処理しきれなくなる懸念があることから、データセンターネットワークの拡張性と、資産・運用コスト削減との両立を実現する新世代の高速イーサネット技術として、速度を従来の 2.5 倍に高めた 25ギガビットイーサネットが注目を集めています。25 ギガビットイーサネットは現在、米国電気電子学会（IEEE）P802.3by タスクフォースで議論されており、2016 年 9 月に標準化の完了が予定されています。

IEEEによる標準化完了前の段階で、今回のように実機を用いて25ギガビットイーサネットの測定デモンストレーションを行うことは、25ギガビットイーサネットの実用性を証明すると共に、性能測定手段の提供を通じて東陽テクニカとSpirent社が、スイッチベンダー、通信事業者などの製品・サービス開発を一気に加速させるのに大きく貢献することを示すものとなります。

【デモンストレーション概要】

Interop Tokyo 2016 のファーウェイ・ジャパン社ブース（5Z32）にて、「Spirent TestCenter（Spirent TestCenter 25Gテストモジュール搭載）」と「Cloud Engine データセンター・スイッチ」を展示し、25ギガビットイーサネットのトラフィックがパケットを損失することなく実際に送受信される様子を公開します。ファーウェイ・ジャパン法人ビジネス事業本部 シニア ソリューション セールズ マネージャーである高木 圭一氏は、このデモンストレーションに関し次のように述べています。「このたびの共同デモンストレーションを通じて、新規規格インタフェースが既に実用の域に達していることをご紹介できることを嬉しく思います。」

【Spirent TestCenter 25G テストモジュールの主な特長】

「Spirent TestCenter」はさまざまな測定を1台で実現するというコンセプトの元に開発されている、次世代型IPパフォーマンススタで、「Spirent TestCenter 25Gテストモジュール」は、Spirent TestCenterの最新テストモジュールです。

- ・1枚のテストモジュールに25ギガビットイーサネットを最大48ポート実装
- ・Spirent TestCenter 1シャーシに最大12枚の25Gテストモジュールを搭載可能
- ・Spirent TestCenter 1シャーシあたり、最大576ポートから計14.4Tbpsの大容量トラフィックを印加
- ・100/50/40/10ギガビットイーサネットにも対応可能なマルチスピード・モジュール

【製品データ】

- ・製品名： 「Spirent TestCenter 25Gテストモジュール」
- ・販売開始： 2016年6月1日

【ShowNet^{※3}にコントリビュータとして参加】

東陽テクニカはInterop Tokyoのブース出展だけでなく、今年もShowNetにコントリビュータとして参加します。ShowNetとは出展各社から提供されるさまざまな機器を相互接続して幕張メッセイベント会場に構築される巨大なネットワークで、「最新の機器群を」「最新の技法で」組み上げることで来場者にトレンドを伝えることを目的としたプロジェクトです。東陽テクニカは主に完成したネットワークの性能検証をサポートしており、「Spirent TestCenter」は安定したShowNetを構築するための必須ツールです。

東陽テクニカは、今後も通信サービスを提供する通信事業者やサービスプロバイダーおよび通信機器製造業者向け負荷測定器の提供を通じ、通信サービスの高速化と品質の向上に貢献してまいります。

- ※1 Interop Tokyo 2016
会期： 2016年6月8日（水）～6月10日（金）
会場： 幕張メッセ
サイト： <http://www.interop.jp/2016/>
- ※2 データセンター内のラック最上部（Top of Rack）に設置されるボックス型スイッチ。限られたラックスペースに大量のサーバを収容し、高ポート密度を実現している。
- ※3 ShowNetとは、幕張メッセイベント会場に構築されるライブネットワークの総称。
<http://www.interop.jp/2016/exhibitor/outline/index.html#shownet>

<Spirent Communications 社について>

Spirent Communications 社（本社：米国カリフォルニア州）は、IT・通信業で用いられる最新の技術、インフラストラクチャ、アプリケーションを評価するための先進的な測定器、測定手法を開発・提供しています。研究開発ラボおよび通信事業者、通信機器製造会社、一般企業の IT 部門など全世界で幅広く使用され、リーディングカンパニーとして長年通信事業の品質向上に貢献しています。同社のソリューションによって 400G イーサネット、LTE/無線 LAN/衛星通信、NFV/クラウド、IoT/M2M、セキュリティなど、IT・通信に関わるあらゆる観点での性能・品質確認が可能になります。東陽テクニカは同社の国内における総代理店です。

<株式会社東陽テクニカについて>

東陽テクニカは、昭和 28 年の設立時より「技術と情報」をキーワードに日本の技術発展に寄与することを使命として、主として最先端の「測るツール」を欧米の電子計測器メーカーより輸入し、日本の研究・開発者に提供してきました。さらに、「電子技術センター」における修理、校正、技術サポートや自社製品の開発、「テクノロジーインターフェースセンター」で行うお客様向けの各種セミナー、トレーニングなどの取組みは、470 名を超える全従業員の 9 割近くを占めるエンジニアの技術力に裏付けられています。東陽テクニカはこれからも「「はかる」技術で未来を創る」のスローガンのもと、「テクノロジーインターフェース」の使命を果たすべく努力してまいります。

東陽テクニカ Web サイト：<http://www.toyo.co.jp/>

★ 本件に関するお問い合わせ先 ★

株式会社東陽テクニカ 情報通信システムソリューション部 山路 洋史

TEL：03-3245-1250（直通）

E-mail：spirent-web@toyo.co.jp

「Spirent TestCenter」製品ページ：

<http://www.toyo.co.jp/ict/products/detail/testcenter.html>

※本ニュースリリースに記載されている内容は、発表日現在の情報です。製品情報、サービス内容、お問い合わせ先など、予告なく変更する可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

※記載されている会社名および製品名などは、各社の商標または登録商標です。